

2月18日㊥▶3月5日㊤

第76回 姫路市美術展

●会場：姫路市立美術館企画展示室 ●休館日：月曜日 ●料金：無料

1946（昭和21）年、第1回展が開催されて以来、本展は兵庫県内で最も古い公募展として今日まで続いてきました。15歳以上であれば国籍、居住地を問わず、どなたでも応募できる開かれた展覧会です。応募作品から入選・入賞作品を公開します。本年度も、審査員による公開講評会を催します。



市役所ロビー展示（姫路市役所1階）

姫路市美術展優秀作品

●休館日：本庁閉所日 ●料金：無料

1 4月4日㊤▶8月5日㊥ 2 8月8日㊤▶12月2日㊥ 3 12月5日㊤▶3月31日㊥

オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト All Himeji Arts & Life Project

アートはライフ（命・一生・くらし）に溶け込んでこそ真価を発揮します。姫路市立美術館は、アートのプラットフォームとして、海・島・山・森林・田園、ひめじ全域が擁する地域文化をアートの力で市民ライフの糧として再発見するとともに、新たな姫路の魅力を国内外に発信するアートプロジェクトを推進します。

姫路市立美術館では、姫路の二大文化資源である姫路城と圓教寺をつなぎ、有形・無形の文化資源の現代的価値を創出・発信する文化クラスターを形成していきます。2022年度は現代美術作家の杉本博司氏の展覧会と「霧のアーティスト」中谷美二子氏の庭園アートプロジェクト（2024年度までの3か年事業）を開催します。



姫路城



書寫山園教寺常行堂

2022年度友の会会員募集中

- 年会費：普通会员3,000円 学生会員1,500円
 - 常設展・企画展の無料観覧
 - 美術鑑賞旅行など友の会イベントのご案内
 - 美術館内喫茶の割引利用など
- お問い合わせは 友の会事務局へ TEL 079-222-2288

INFORMATION [ご利用案内]

開館時間

午前10時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

下記の日は夜8時まで美術館前庭を開場します。

9月10日㊥～11月6日㊤期間中の金・土曜日

休館日

毎週月曜日（祝日・休日の場合を除く）

7月19日㊥、9月20日㊥、10月11日㊥、12月28日㊥～1月3日㊥、1月10日㊥

休館のお知らせ

メンテナンスのため、2023年3月6日から3月末まで休館予定です。前庭は開園予定です。（月曜日は除く）

交通

【姫路市立美術館】

鉄道（姫路駅まで）

JR新幹線…新大阪から約30分、岡山から約20分

JR在来線…大阪から在来線（新快速）で約1時間、JR三ノ宮から約40分、岡山から約1時間25分

山陽電車…大阪梅田から約1時間30分、神戸三宮から約1時間

姫路駅から

徒歩約20分
神姫バス⑦または⑧乗り場から乗車約8分、「姫山公園南・医療センター・美術館前」停留所下車すぐ

車（姫路城を目標にご来館下さい）

中国自動車道 福岡I.C.より播但連絡自動車道で姫路ランプ下車約15分
山陽自動車道 姫路東I.C.あるいは姫路西I.C.下車約15分
阪神高速・姫路バイパス中地ランプ下車約15分
*美術館に駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

【杉本博司イン・レジデンス会場】

書寫山園教寺へのアクセスは「姫路駅」より神姫バス⑩乗り場から乗車約30分「書寫山ロープウェイ」下車、ロープウェイで約4分（山上駅から徒歩約20分）
<http://www.shosha.or.jp/>



Himeji City Museum of Art

EXHIBITION SCHEDULE 2022-2023

Kunitomi Keizo Collection Gallery [常設展示]



クロード・モネ
《ル・ブティ=ジュヌヴィエリエにて、日の入り》
1874年

通年（休館中を除く）

國富峯三コレクション

近代フランス絵画 モネからマティスまで

フランス近代絵画を中心とする50点のコレクション。写実主義の कोरो、クールベから印象派のモネ、ピサロを経て、20世紀絵画に大きな足跡を残したマティスまで、19世紀から20世紀にかけてのフランス絵画を常時30点展示しています。

- 休館日：月曜日（祝日・休日の場合は開館し翌平日休館）、年末年始
- 料金：一般210（160）円/大高150（120）円/中小100（80）円
- *（ ）内は20人以上の団体料金

CALENDAR [美術館カレンダー]

4	5	6
2022		
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7	8	9
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10	11	12
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
1	2	3
2023		
8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

姫路市立美術館 展覧会のご案内

姫路市立美術館

Himeji City Museum of Art

〒670-0012兵庫県姫路市本町 68-25
TEL 079-222-2288 <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>



庭園アートプロジェクト 7月上旬 ▶ 3月12日



中谷芙二子《Standing Cloud #07240》Choumont-sur-Loire, France, 2013年 photo by Eric Dufour

中谷芙二子 霧の彫刻

中谷芙二子は、「霧のアーティスト」として知られ、その作品は、テート・モダンをはじめ80を超える世界各地で発表されてきました。本プロジェクトでは、中谷による《霧の彫刻》を美術館前庭に展開。姫路城・美術館建物・庭園が生み出す三位一体の景観そのものを《霧の彫刻》によって作品化します。



中谷芙二子氏 photo by Laura Miglione

●休場日：月曜日、年末年始 ●料金：無料
*会期開始日は決定次第、美術館HPでお知らせします。

Special Exhibition [企画展示]



アトリエで制作中の野田弘志氏

野田弘志《聖なるもの THE-IV》2013年 ホキ美術館蔵

7月2日 ▶ 9月4日

野田弘志 真理のリアリズム

野田弘志は、日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人です。その作品は一貫して写実を追求したもので、人物・静物・風景いずれも対象を凝視し存在そのものを永遠に画面の中に閉じ込めたかのような絵画といえます。現在は北海道を拠点に日夜制作に没頭する孤高の日々を送り、傘寿を超えてなおリアリズムの画壇を牽引し続けています。本展では、野田弘志の初公開作品を含む最初期から近作までを一室に展開し、その画業の全容を回顧します。

●休館日：月曜日(ただし7/18は開館)、7/19
●料金：一般1,200(1,000)円/大高600(400)円/中小200(100)円
★全展覧会料金において()内は20人以上の団体料金

杉本博司@書寫山圓教寺常行堂

前期:4月29日 ▶ 8月31日 後期:9月17日 ▶ 12月4日

杉本博司 前期 Five Elements 地水火風空
後期 Noh Climax 神男女狂鬼



1

2

3

1. 杉本博司《光学硝子五輪塔 カリブ海、ジャマイカ》2011/1980年 小田原文化財団蔵 © Hiroshi Sugimoto
2. 《阿弥陀如来坐像》平安時代 ©書寫山圓教寺 / SHOSHAZAN ENGYOJI TEMPLE
3. 下関少進《万福》桃山時代 小田原文化財団蔵 © Odawara Art Foundation

現代美術作家・杉本博司が、通常是非公開の書寫山圓教寺常行堂(国指定重要文化財)において《阿弥陀如来坐像》(国指定重要文化財)と杉本作品《光学硝子五輪塔》によるインスタレーションを展開。9月17日からは、圓教寺と姫路城を舞台にした杉本の映像作品《Noh Climax》が加わります。現代美術と仏教美術が時空を超えて出会う壮大な世界を「総合芸術の聖地」圓教寺でご堪能下さい。



杉本博司氏

●無休 ●料金：一般500円/大高200円/中小100円
*別途、圓教寺拝観志納金が必要です。



1

2

3

4

1. 杉本博司《虜仏希釈》(部分) © Odawara Art Foundation
2. 杉本博司《華嚴滝園》(部分) 1977 / 2005年 小田原文化財団蔵 © Odawara Art Foundation
3. 杉本博司《日本海、隠岐》1987年 © Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi
4. ギュスターヴ・クールベ《波》1870年頃 姫路市立美術館蔵 國富奎三コレクション

9月17日 ▶ 11月6日

杉本博司展 本歌取り

優れた古歌の一部を引用し作歌する和歌の技法「本歌取り」こそが日本文化のありようであると考え杉本博司が、千利休の「見立て」やマルセル・デュシャンの「レディメイド」を参照しながら、独自の解釈を加え新たな世界を構築し、杉本作品と自身の所蔵品をダイナミックに展覧します。圓教寺より《性空上人坐像》(県指定文化財)も出品。

●休館日：月曜日(ただし9/19、10/10は開館)、9/20、10/11
●料金：一般1,200(1,000)円/大高600(400)円/中小200(100)円

11月19日 ▶ 1月15日

ザ・ミュージアム・コレクション・ミーツ・スギモト The Museum Collection Meets SUGIMOTO 本歌取り式 名画選

杉本博司の「本歌取り」を援用し、美術館学芸員がコレクションを再検証します。既存の解釈や価値の更新を試み、美術館所蔵の作品たちの新たな魅力を掘り起こし、杉本作品とともに展示します。

●休館日：年末年始、月曜日(ただし1/9は開館)、1/10
●料金：一般700(500)円/大高400(200)円/中小200(100)円

野田弘志 真理のリアリズム

杉本博司展 本歌取り

本歌取り式 名画選

庭園アートプロジェクト 中谷芙二子 霧の彫刻

杉本博司@書寫山圓教寺常行堂 杉本博司 Five Elements 地水火風空

杉本博司@書寫山圓教寺常行堂 杉本博司 Noh Climax 神男女狂鬼



Collection Gallery [コレクションギャラリー] ●料金：無料

4月9日 ▶ 6月19日

濱田観 花鳥画の世界

濱田観は、姫路出身の日本画家です。京都に出て竹内栖鳳門下となり、官展を中心に活躍。昭和期の姫路市展日本画部門審査員も務めています。本展では、濱田が得意とした花鳥画の大作を中心に、その息子で同じく日本画家・濱田昇児の作品と合わせて展覧します。



濱田観《花芥子》1980年

6月25日 ▶ 9月4日

没後30年 尾田龍展

尾田龍は姫路出身の洋画家です。姫路中学を卒業後、東京美術学校に学びました。帰郷し、姫路西高等学校などの教諭を務めながら国画会に出品し続けました。内外を旅行し、その風景を激しいタッチで描いています。尾田の初期から晩年の作品を紹介いたします。



《はりま野》1971年 姫路市文化センター大ホールの大原の原画

9月10日 ▶ 11月6日

新収蔵品を中心に

令和3年度に当館で新規購入・受贈した新収蔵作品より、初公開となる作品を中心に展覧します。



庭山耕園《藤花白鹿図》1919年

11月12日 ▶ 1月15日

鉄の技と美 III — 姫路藩主酒井家の刀剣

江戸時代は、後鳥羽上皇の「貴人が刀を打つ」という伝統を継承し、各地の大名が鍛刀していました。姫路藩主酒井家では、城内に鍛冶小屋を設け、焼刃をおこなっていました。本展では、開館以来収蔵してきた、酒井家歴代ゆかりの刀剣の美を紹介します。



《鑓指 銘 以》江戸時代中期 姫路神社蔵(姫路市立美術館寄託)

1月21日 ▶ 3月5日

西洋美術に見る心の中の世界

印象派と同時期に登場した象徴派の画家たちは、精神世界や内面世界を描いています。また、現実の色や形をデフォルメすることで心の中を表現しようとしたのが表現主義です。20世紀に入ると、シュルレアリスムの画家たちが、深層心理に着目し、これを表現しようしました。西洋近代の象徴主義からシュルレアリスムに至る系譜をたどります。



エドヴァルド・ムンク《橋の上の少女たち》1920年